

令和5年度 新しい時代の学びの環境整備先導的開発事業  
成果報告書

## “一体感のある島の「ど真ん中」の学校”

利島村立利島小中学校



令和6年3月

利島村

# 目次

はじめに

<b>第1章 計画の背景</b>	・・・・・・・・・・ P 1
1-1. 利島村の概要	
1-2. 教育大綱	
1-3. 公共施設の整備計画	
1-4. 新しい時代の学びの環境整備先導的開発事業の取り組み方針	
<b>第2章 主な教育・福祉施設等</b>	・・・・・・・・・・ P 12
2-1. 利島小中学校	
2-2. 利島村郷土資料館	
2-3. 利島村勤労福祉会館	
<b>第3章 意見・要望の整理</b>	・・・・・・・・・・ P 32
3-1. 教職員	
3-2. 村民ワークショップ	
3-3. 児童生徒	
3-4. 協議会委員・有識者	
<b>第4章 先進事例視察</b>	・・・・・・・・・・ P 43
4-1. 視察対象校の概要	
4-2. 視察で得られた知見	
<b>第5章 学校づくりの目標</b>	・・・・・・・・・・ P 57
<b>第6章 施設計画の組み立て</b>	・・・・・・・・・・ P 58
6-1. 諸条件の整理	
6-2. 施設計画の目標	
6-3. 必要室・面積	
6-4. 新しい施設の基本的な構成	

**第7章 先導的開発事業の検討結果** . . . . . P 66

- 7-1. 教育 DX により転換期にある学校教育を実現する施設環境
- 7-2. 村民全員にとって、生涯を通じた学びの拠点となる学校施設
- 7-3. 「サステイナブルな島」を形成するための学校施設
- 7-4. 村民の心のよりどころとなる利島のシンボルとなる学校施設
- 7-5. 計画プロセスと3つの課題
- 7-6. 離島地域特有の課題
- 7-7. 具体化にあたっての利島村の方向性

**第8章 検討の経過** . . . . . P 104

- 8-1. 検討の記録
- 8-2. 検討体制

おわりに

## はじめに

利島村は伊豆諸島北部に位置する人口約 300 人の一島一村の小離島です。令和 5 年度に村政 100 周年を迎え、これまでの 100 年に感謝するとともに、これからの 100 年を創り上げていくためにも、今を生きる我々世代が更なる努力を重ねていくことが重要です。

そうした中、島づくりの根幹は人づくりであるという認識のもと、令和 6 年 1 月に新しい教育大綱を公表いたしました。そこでは、一人ひとりが村の将来を創る「当事者」として活躍する「一体感のある島」利島を目指しています。

その中核になるのが学校です。これからの時代を力強く生き抜き、社会を創っていく子供たちを育てるために、新しい学びに挑戦しやすい学校づくりが必要です。また、村民の皆様の「学びの場」「集いの場」としての学校の機能も、利島ではより一層重要視しています。

今の校舎は、40 代である私が学んだ校舎ですが、古い部分で築 50 年となり、老朽化を迎えています。例年教育委員会予算の中で最も高額になるのは、校舎の修繕であり、校舎の改善の必要性は自明です。一方で限られた人的・物的リソースの中で、検討が進んでいなかったのも現実です。小規模自治体やとりわけ離島においては、利島と同様の課題を抱えているケースも多いかと思います。そうした中、文部科学省の「新しい学びの環境整備先導的開発事業」のモデル地域として採択いただき、島内の知見を集約するとともに専門的な観点から有識者の皆様にご助言もいただき、新しい利島の学校づくりについて、検討を大きく前に進めることができました。

来年度以降も、更にこの具体化に向けて取組を進めてまいります。今年度の事業報告書として、小規模自治体・離島の強みと課題の両面を、本報告書には記載しておりますので、ぜひ全国的な知見としてご活用いただければと考えています。

利島村長 村山将人

# 第1章 計画の背景

## 1-1 利島村の概要

利島村は、東京都伊豆諸島北部に位置し、東京から南に約140km、黒潮の流れる太平洋上に浮かぶ円すい状の小さな島「利島」にある人口約300人余りの村である。厳しい自然環境と共存しながらも、ゆっくりした「島時間」が流れている。

全島の約80%が椿(ヤブツバキ)に覆われ、日本トップレベルの椿油生産量を維持している。

利島の交通手段はヘリコプター、大型客船、高速ジェット船等がある。

島民20代から40代のうち、約8割が移住者で構成されており、デジタル化にも注力している。「島っぽい古き良き」と「新しさ」が共存した島である。

### (1) 人口

利島村の総人口は令和5年5月1日現在で317人(住民基本台帳による世帯と人口)である。世帯数は187世帯となっている。15歳以上65歳未満の生産年齢人口は196人(61.8%)で日本の総人口における同割合(59.4% 令和5年2月)と同等か少し高い状況にある。65歳以上の高齢人口は74人(23.3%)で日本の総人口における同割合(29.1% 令和5年8月総務省)より低い。相対的に15歳未満の人口比率が総人口より高いと言える。

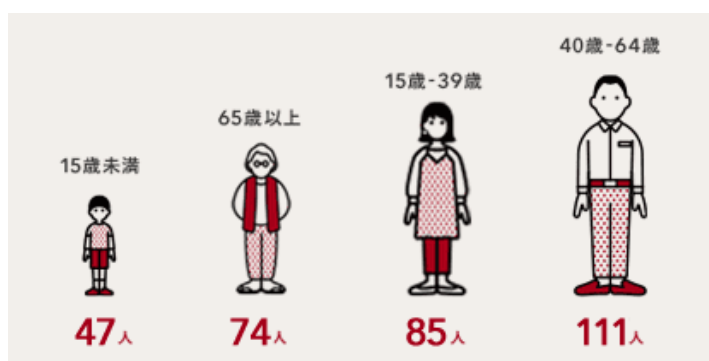
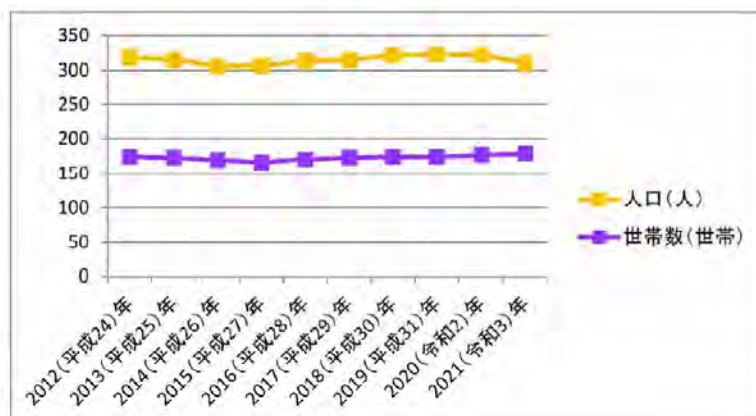


図.年齢別人口 (東京都総務局 HP)

表.人口推移

(出典：利島村学校施設長寿命化計画 令和4年3月)



## (2) 位置・面積・地形等

利島は東京から南に約 140km に位置し、周囲約 8km、面積 4.12 ㎢の小さな島である。

富士火山帯に属する火山島であり、標高 508m の宮塚山を頂とする美しい円錐形の島で、平地は少なく、海岸は断崖が続いている。山頂付近はスタジイ・タブ等の原生林が繋がり、比較的傾斜が緩やかな斜面に集中している集落の他は、ほぼ全島が椿林に覆われている。椿の本数は約 20 万本あると言われており、冬になると島中で椿の花を見ることができる。

地質は玄武岩と安山岩からなる成層火山岩質で、表土は腐食に富んだ暗褐色および黒色の土壌から形成されている。伊豆諸島中、もっとも地味が肥沃といわれ、作物の栽培や樹木の生育に適した土壌である。



図.利島の位置



画像 ©2024 Google, Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO, TerraMetrics, 地図データ ©2024

図.利島村全域

### (3) 歴史・産業

利島の人の痕跡は古く、今からおよそ六千年をさかのぼる昔、利島へ渡ってきた人々がいたと考えられている。縄文時代や弥生時代に作られた土器が出土されており、土器の形式や住居の作り方が関東西部から中部地方のものと似ているところがあるため、これらの地方の人々が伊豆半島を経由して、利島へ渡来したのではないかと考えられている。

石で刃物をつくり、骨の銚を使い、土器で食べ物を煮炊きする生活が始まって、また浜石を利用した石畳や石垣は、縄文時代から始まったもので、当時の人たちは、海岸から持ち上げた浜石を大石山の一角に積み上げ、そこで祭りを行ったと考えられている。

明治維新後、韮山県、足柄県、静岡県を経て明治 11 年東京府となり、明治 33 年には大島島庁下となり、島しょ町村制が大正 12 年に施行されたことで、それまで 300 年近く島の責任を担ってきた名主制度が廃止された。明治 18 年には東京都となり、同 21 年の地方自治法の施行にともなって、公選村長が選ばれて利島村は新しい地方自治の形態を整えるに至った。

基幹産業は農林業であり、椿油、明日葉、しどけを生産している。他に水産業もおこなわれており、伊勢海老、サザエ、メッカリ、タカベ、ハバノリ等が獲れる。

産業分類別の就労人口は、平成 27 年時点で第一次産業（農林水産業）が 42 人、第二次産業（建設、製造業）43 人、第三次産業（教育、医療福祉、公務、サービス業等）154 人と第三次産業の割合が高い。

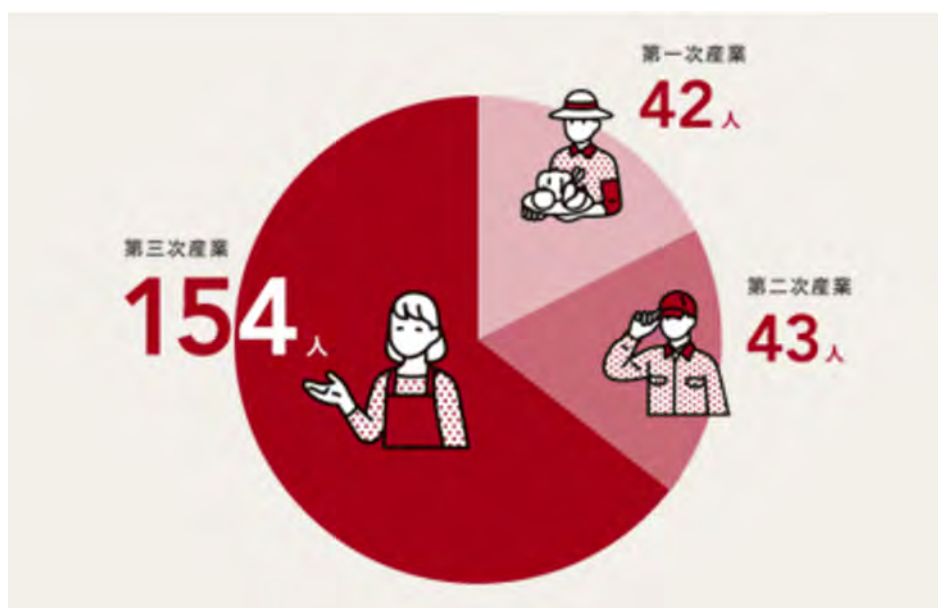


図.産業分類別就労人口（東京都総務局 HP）

## 1-2 教育大綱

### (1) 新教育大綱 “人づくりが島づくり”大綱

村では本計画と同時並行で教育大綱改定の協議を重ねてきた。島づくりの根幹は人づくりであるという認識のもと、令和6年1月に新しい教育大綱を公表した。そこでは、一人ひとりが村の将来を創る「当事者」として活躍する「一体感のある島」利島を目指している。

利島を良くする「自燃性」の人を育てることが、学校教育の重要な機能となる。

表.利島村新教育大綱

**利島村“人づくりが島づくり”大綱～利島を良くする「自燃性」の人：「当事者」「自立」「一体感」～**

利島村及び利島村教育委員会は、利島の将来像『生き生きとした活力のある島 自立する村 利島』を実現するため、利島村民や利島にゆかりある人々（利島人）の力に最大の価値をおきます。  
一人ひとりが自燃性を発揮し、村の将来を創る「自立した当事者」として活躍する「一体感のある島」利島の実現を目指します。

≪3つの柱≫  
そのために、以下3つの柱を設定し、利島の強みを生かした前向きな取組を推進します。実施する取組は、村民の皆様からの生の声と数量的なデータの両面から効果検証し、改善していきます。

(1) 一人ひとりが、利島や世の中をより良くする「当事者」として生涯学び合い、高め合い、行動し合う島づくり  
(2) 子供たちの「15の春」に向けた「自立」をみんなで実現する島づくり  
(3) 多様性のもとで支え合い、住みやすさと幸福を実感できる、「一体感」のある島づくり

利島村は100周年!



としまとずっと

【人物像】「自燃性」の人



【3つの柱】(1)「当事者」



(2)「自立」



(3)「一体感」



(1) 一人ひとりが、利島や世の中をより良くする「当事者」として生涯学び合い、高め合い、行動し合う島づくり

- ・「評論家」ではなく物事を自分事として捉える「当事者」として、利島や世の中を良くするために行動できる人材の育成
- ・周囲と協調しながら、失敗を恐れずに前向きに挑戦できる人材の育成
- ・島内外の知恵・知見を生涯にわたって学び続け、現在利島に住んでいてもなくても利島に貢献できる仕組みの充実

(2) 子供たちの「15の春」に向けた「自立」をみんなで実現する島づくり

- ・「利島ならではの」環境を生かし、予測不可能な時代にあらゆる場所で活躍できる「利島っ子」を育てる義務教育学校
- ・利島の担い手の一員である教師自身が学び続けて成長できる、「教師が育つ利島」の実現
- ・「15の春自立シート」や「利島っ子カリキュラム」に基づき、保育園・学校・家庭・地域等の関係者一丸で子供を応援し、子供と大人が共に成長する地域ぐるみの子育て

(3) 多様性のもとで支え合い、住みやすさと幸福を実感できる、「一体感」のある島づくり

- ・利島に「住んでみたい」「住み続けたい」「帰ってきたい」と思う、安心できる「居場所」と盛り上がる「舞台」の創出
- ・「憶測」ではなく「対話」で溢れるようにするための、お互いを認めて語り合える場づくり
- ・一人ひとりの将来と村の将来について見通しを持ち、安心して利島に住み続けられるようにするための支援の充実



### 1-3 公共施設の整備計画

小規模自治体の利島村では、学校施設整備の検討をするにあたって、他の公共施設との優先順位付けや、複合化の視点が必要不可欠である。これまで利島村は、以下の公共施設の整備計画を策定しており、学校施設計画の在り方を考える際の基礎資料となる。

#### (1) 公共施設等総合管理計画（令和3年3月策定）

村では令和3年3月に公共施設等総合管理計画を策定している。将来の人口規模に合わせた公共サービスの確保と限られた敷地を最大限活用した公共サービスの質の向上を原則とし、次に示す基本方針等に基づき計画を策定している。

- 基本方針
  - 1 必要な機能を確保する（統合や廃止の推進方針）
  - 2 安全を守る
    - ①安全確保の方針、②耐震化の実施方針
  - 3 長く使う
    - ①点検・診断等の実施方針
    - ②維持管理・更新等の実施方針
    - ③長寿命化の実施方針
  - 4 使いやすくする（ユニバーサルデザイン化の推進方針）
- 管理目標
  - 目標1 必要以上の公共施設の建設はしない
  - 目標2 社会の要請を踏まえた適切な機能強化
  - 目標3 公共施設の維持管理・更新費用の平準化
- 管理方針
  - 1 建築経過年に応じた適正化の実施
  - 2 戦略的な統廃合や複合化の優先的な実施

表. 適正化方策と実施時期

中分類	番号	施設名	建築年	適正化方策	短期 ~2030年	中期 ~2040年	長期 ~2060年
庁舎	1	利島村役場	1979	拠点化		複合化	
博物館等	2	利島村郷土資料館	1988	拠点化		複合化	
産業系施設	3	利島村勤労福祉会館	1974	拠点化			機能移転
集会施設	4	地域交流会館	2007	拠点化			機能強化
学校	5	利島小・中学校	1973	拠点化	建替え 機能強化		
体育館	6	利島村中学校体育館	1988	拠点化	大規模 修繕		
レクリエーション施設	7	前浜親水レクリエーション施設	1989	維持			長寿命化
高齢福祉施設	8	利島村高齢者在宅サービスセンター	1996	拠点化		複合化	
医療施設	9	利島村国民健康保険診療所	1981	拠点化		複合化	
幼保・こども園	10	村立利島保育園	1998	拠点化		複合化	

計画では、それぞれの施設の適正化方策と実施時期を示している。適正化方策としては、複

合化と機能集約（拠点化）を図るものとしている。実施時期は10年単位とした3段階に分けて行うものとしている。

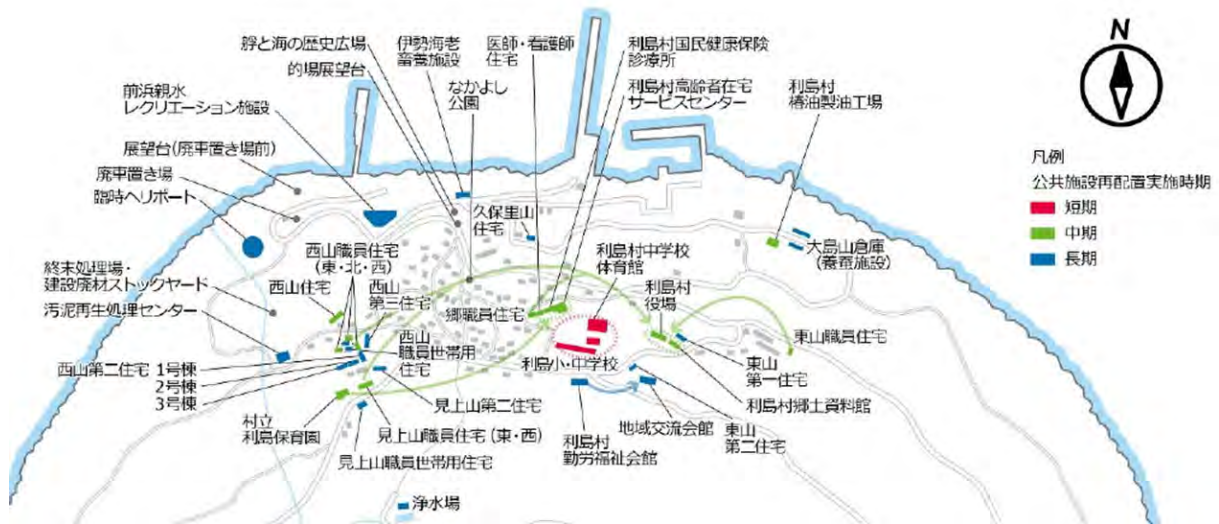


図.適正化方策後の将来配置図

学校施設は短期的に整備するものとし、生涯学習・交流の拠点、避難拠点として機能強化を図るとしている。

**(2) 利島村公共施設再編・拠点化基本構想（令和3年3月策定）**

公共施設等総合管理計画の検討と同時に、主な公共施設の再編をどのように図っていくか、基本構想としてまとめている。

公共施設が集まる場所を整備対象エリアとし、その周辺に位置する公共施設を整備対象エリアに移転することで、公共サービス機能の集約化・複合化を図るとしている。



図.対象エリア

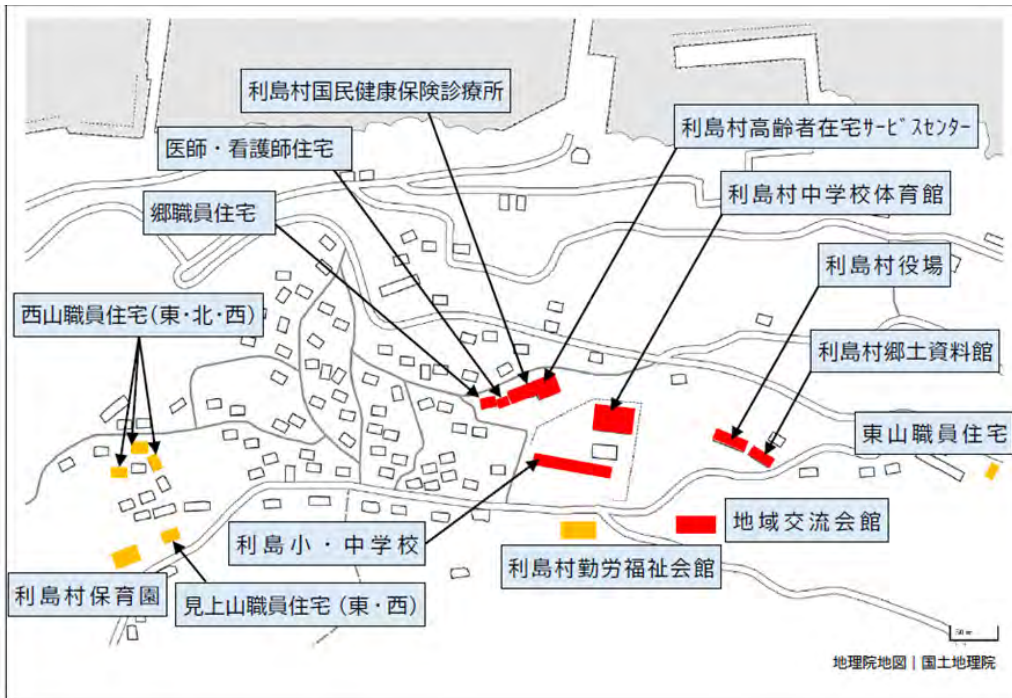


図.対象施設

公共施設再編のコンセプトとして、「まるっと広場-みんなが集く多世代交流拠点の形成-」を掲げ、町民テニスコートをコアとなる広場と位置付けてそれを囲む公共施設かで多世代交流拠点を形成するとしている。



図.コンセプトイメージ



図.公共施設機能再編イメージ

学校施設については、公共施設等総合管理計画と同様に生涯学習の拠点として教育機能の強化を図るとしている。

(3) 学校施設長寿命化計画（令和4年3月策定）

公共施設等総合管理計画を上位計画とした学校施設長寿命化計画では、学校施設の老朽化状況と構造健全性を評価した上で、複数の整備方法と整備コストを比較検討している。

構造躯体については、いわゆる旧耐震の校舎のコンクリート圧縮強度を確認し、基準強度を満たしているため、新耐震校舎と合わせて長寿命化改修が可能と判定している。一方で劣化状況については新耐震を含む多くの校舎において、内外装の劣化が広範囲にわたっているという結果が示されている。

表.建物調査結果

建物情報一覧表

■:築50年以上 □:築30年以上 基準 2021

A:概ね良好 C:広範囲に劣化  
B:部分的に劣化 D:早急に対応する必要がある

通し番号	学校調査番号	施設名	建物名	棟番号	用途区分		構造	階数	延床面積(㎡)	建築年度		築年数	構造躯体の健全性			劣化状況評価					備考			
					学校種別	建物用途				西暦	和暦		耐震安全性			屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備		健全度(100基準)		
													基準	診断	補強								圧縮強度(N/㎡)	長寿命化判定
1	1861	利島小学校	校舎1	005	小学校	校舎	RC	2	228	1973	S48	48	旧	済	済	22.2	長寿命	C	C	C	B	B	49	大改(空調)(耐震補強)H17年 大改(トイレ)H21年10月
2	1681	利島小学校	旧給食室	006,009	小学校	校舎	S	1	106	1977	S52	44	旧	-	-	-	改築	C	C	C	C	C	40	
3	1661	利島小学校	校舎2	007	小学校	校舎	RC	2	173	1983	S88	38	新	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75	大改(空調)H17年
4	1661	利島小学校	校舎3	008	小学校	校舎	RC	2	41	1990	H2	31	新	-	-	-	長寿命	C	C	C	B	B	49	
5	1661	利島小学校	校舎4	010,012	小学校	校舎	S	1	40	1990	H2	31	新	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75	
6	1661	利島小学校	校舎5	011	小学校	校舎	S	1	11	1990	H2	31	新	-	-	-	長寿命	C	C	C	B	B	49	
7	1661	利島小学校	電気室	013	小学校	校舎	W	1	32	2002	H14	19	新	-	-	-	長寿命	B	B	B	A	A	81	※機械設備対象無
8	1661	利島小学校	給食室	014	小学校	校舎	RC	1	126	2004	H16	17	新	-	-	36.6	長寿命	C	B	B	A	C	71	
9	4408	利島中学校	校舎1	004	中学校	校舎	RC	2	566	1973	S48	48	旧	済	済	22.2	長寿命	C	C	C	B	B	49	大改(空調)(耐震補強)H17年 大改(トイレ)H21年10月
10	4408	利島中学校	体育館	008	中学校	体育館	RC	2	868	1989	H元	32	新	-	-	39.8	長寿命	B	C	C	B	B	52	
11	4408	利島中学校	渡り廊下	009	中学校	その他	RC	3	200	1989	H元	32	新	-	-	28.2	長寿命	C	C	C	B	A	52	※機械設備対象無
12	4408	利島中学校	校舎2	010	中学校	校舎	RC	2	128	1990	H2	31	新	-	-	-	長寿命	C	C	C	B	B	49	
13	4408	利島中学校	校舎3	012	中学校	校舎	RC	2	276	1996	H8	25	新	-	-	26.5	長寿命	C	C	C	B	B	49	

#### (4) 空き家を活用した島内外の人材交流拠点整備事業/子供の未来を育む拠点づくり事業

村では関係人口の創出と将来の居住人口を目指して、現在複数の事業を推進している。以下に示す事業は、隣接した場所で実施するものであり、連携した活用を行うとしている。

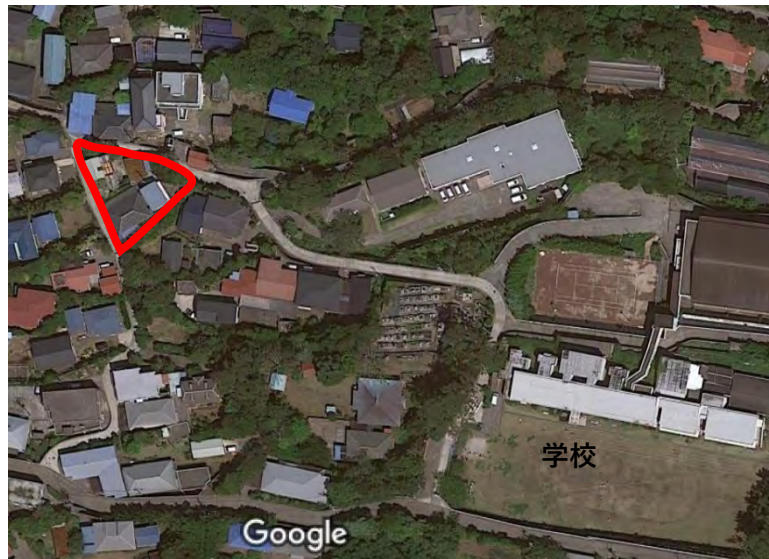
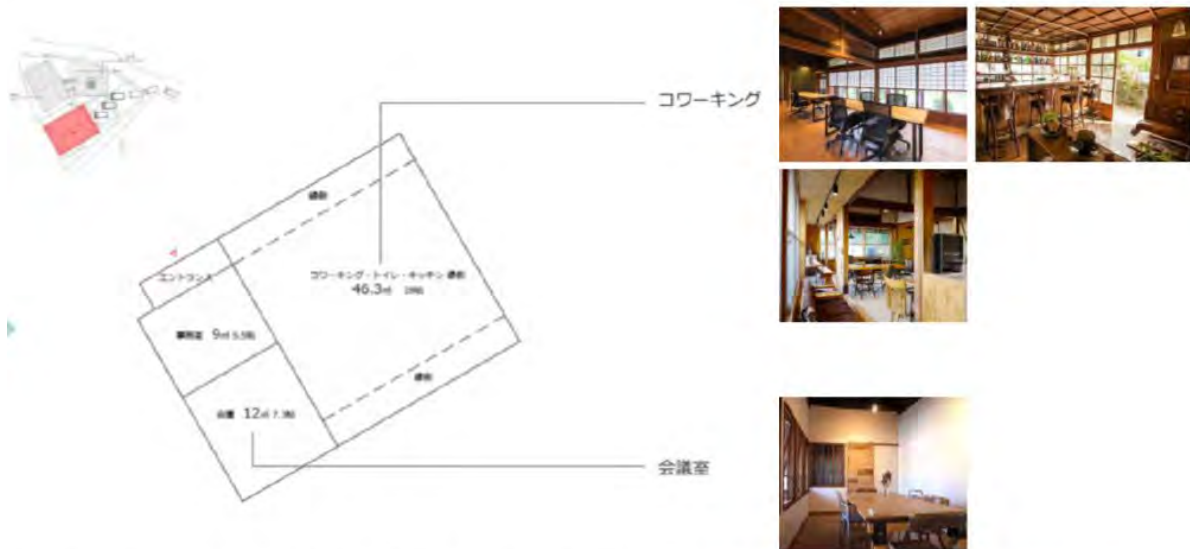


図.事業敷地

##### ①空き家を活用した島内外の人材交流拠点整備事業

島内外の人材交流機会の創出を目指し、空き家を活用し、カフェやコワーキングスペース、村の伝統文化を学べるコミュニティスペースなどの活動の場をして整備するものである。



- コンセプト：利島村の未来と暮らしをデザインする子供からお年寄りまで集えるコミュニティスペース
- 位置：島内集落の中心地にあり、周囲に民宿も多くあることから島内外の人が集いやすい
- 利用者数：15名利用可能
- 運営体制：デジタル技術を活用し、少人数による運営を実現（島内人材不足に対応し、持続可能な運営を構築）

図.人材交流拠点整備事業の概要

## ②子供の未来を育む拠点づくり事業

雨の日に室内で全身を動かして遊べる場所がほしいという子育て世代のアンケート結果を受けて、屋内型の子どもの遊び場と学習スペース等を整備する事業である。

2棟新設し、ボルダリングができるプレイルームの他、ものづくりなどの活動ができるDIYスペースやワークスペース、シアター、キッチンコーナーなどが計画されている。



- コンセプト：次世代を担う子供達が遊び・学び、自分らしく成長する拠点とする。
- 位置：島内集落の中心地にあり、学校や学童も近い。周囲に民宿も多くある立地。
- 利用者数：40名利用可能
- 運営体制：デジタル技術を活用し、少人数による運営を実現  
(島内人材不足に対応し、持続可能な運営を構築)

図. 子供の未来を育む拠点づくり事業の概要

これらの施設整備計画を一体的な敷地で隣接して計画することで、相乗効果を図ることを狙いとしている。



図. 2事業の相乗効果


## 1-4 新しい時代の学びの環境整備先導的開発事業の取り組み方針

新しい教育大綱の公表を「絵にかいた餅」で終わらせないために、ハード・ソフト・人材・地域連携などの具体的な取組を進めていく必要がある中、「ハード面」としての学校施設改修の優先度は高い。

利島小中学校の校舎は、古い部分で築50年となり老朽化している。実際、例年教育委員会予算の中で最も高額になるのは校舎の修繕であり、校舎の改善の必要性は自明である。

また、港に降り立つと、利島小中学校は島の「ど真ん中」に位置しており、地域住民の心のよりどころである。

そのような背景の中、①村民の学校教育への関心と当事者意識の向上、②学校と地域の関係づくり、③「サステナブルな利島」の実現の3つの課題に着眼し、(1)教育DXにより転換点にある学校教育を実現する施設環境、(2)村民全員にとって、生涯を通じた学びの拠点となる学校施設、(3)「サステナブルな島」を形成するための学校施設、(4)村民の心のよりどころとなる利島のシンボルとなる学校施設という4つの視点を設定し、本事業を推進することとする。

新しい時代の学びを実現し、かつ村民の社会的共通資本（コモンズ）となる村立小中学校の施設づくりを 長寿命化改修手法で実現する整備基本計画の立案		東京都利島村
<p><b>提案の概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 長寿命化改修手法により、小離島の村唯一の学校の機能的現代化を図る。</li> <li>■ 基本計画の策定にあたっては、村の社会的共通資本（コモンズ）としての学校施設の役割を村民全体を巻き込んで議論する。</li> <li>■ 議論の結果を教育大綱等に反映するとともに、議論の過程を通して、村の課題を共有し、コミュニティ力を高める契機とする。</li> </ul>	<p><b>東京都利島村（としまむら）について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 伊豆諸島にある人口300人の小離島。一集落のみ。水の確保に苦慮</li> <li>➢ 小1～中3までで約30人。島に高校はないため進学と同時に島外へ</li> <li>➢ 小中学校が施設併設で1校（※）</li> <li>➢ 学校が島の「ど真ん中」に位置</li> </ul>  <p>※同様に一市町村一小学校一中学校等の市町村は全国の約14%にのぼる (令和4年3月「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について最終報告」)</p>	
<p><b>現時点の課題</b></p> <p>①村民の学校教育への関心と当事者意識の向上 ⇒自分の子供が中学を卒業したら、関心が離れる傾向 ⇒村議会でも、教育関係の質疑が出ない</p> <p>②学校と地域の関係づくり ⇒新型コロナを契機に、学校と地域の関係が希薄化 ⇒教師の働き方改革と「密な地域連携」の両立が必要</p> <p>③「サステナブルな利島」の実現 ⇒水不足で悩まされてきた歴史を踏まえ水循環システムを導入 ⇒SDGsを当事者として具体化できる児童生徒の育成</p>	<p><b>目標（学校施設そのもの）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育DXにより転換点にある学校教育を実現する施設環境</li> <li>(2) 村民全員にとって、生涯を通じた学びの拠点となる学校施設</li> <li>(3) 「サステナブルな島」を形成するための学校施設</li> <li>(4) 村民の心のよりどころとなる利島のシンボルとなる学校施設</li> </ul>	
<p><b>事業実施方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「利島村の教育を考える協議会」「利島の学校づくり分科会」</li> <li>■ 村民ワークショップ・講演会・アンケート等</li> <li>■ 現地視察</li> <li>■ 基本計画・ビジュアルイメージの作成</li> </ul>	<p><b>目標（学校施設の検討を通して）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 教育・福祉政策への関心を向上させ、施策の推進につなげる</li> <li>✓ 学校の価値そのものを共有することで、当事者意識を高める</li> </ul>	

## 第2章 学校・社会教育施設の現況

### 2-1 利島小中学校

利島村の学校は小学校と中学校がそれぞれ1校であり、小・中併設校で、校舎が1つ・職員室も1つとなっている。児童生徒約30人の小規模校である。島内に高校がないため、子どもたちは義務教育修了時に、親元を離れて島外で暮らすことになる。「15の春に向けた自立」を実現することが重要となっている。

そうした背景から、学校教育目標にも「自立」を掲げ、学校・家庭・地域が連携しながら「利島ならではの」環境を生かした教育活動を行っている。9年間を見通した小中一貫教育を更に進める観点から、令和6年4月より、小学校・中学校を統合し、義務教育学校へ移行する。

また、島内の唯一の体育館が学校体育館であること、村にとって最も広い屋外運動スペースが校庭であること、島内に図書館がなく学校の図書室を地域開放していること等、地域住民の社会教育・社会体育の拠点としても重要な役割を果たしている。



図.村運動会の様子

#### (1) 沿革

利島小中学校の沿革について、施設整備を中心に示す。

明治 10年 4月 1日 東京府利島尋常小学校を設置、4学年単級組織として開校  
昭和 22年 4月 1日 東京都利島村立利島中学校を設置、開校  
昭和 22年 11月 10日 新校舎を新築、移転



昭和 35 年 1 月 20 日 校庭拡張工事完了  
 昭和 35 年 9 月 1 日 新校舎増築（教室 3・宿直室 1）  
 昭和 43 年 9 月 11 日 利島村プール落成  
 昭和 46 年 6 月 2 日 体育館完成  
 昭和 49 年 3 月 8 日 現校舎（鉄筋コンクリート造 2 階建）落成  
 昭和 51 年 9 月 20 日 校庭整備、排水工事完成  
 昭和 53 年 1 月 23 日 給食室完成  
 昭和 54 年 11 月 5 日 温室完成  
 昭和 58 年 3 月 10 日 多目的教室完成  
 昭和 58 年 9 月 20 日 擁壁工事完成  
 平成 1 年 6 月 8 日 新体育館落成  
 平成 2 年 3 月 20 日 図書室、美術室、さくゆり教室完成  
 平成 8 年 4 月 1 日 コンピュータ室・資料室完成  
 平成 12 年 7 月 15 日 新島若郷直下型地震により校舎北側石垣崩れる  
 平成 13 年 3 月 30 日 地震災害復旧工事完了  
 平成 14 年 9 月 30 日 キューピクル工事完了  
 平成 17 年 1 月 31 日 新給食室完成  
 平成 17 年 12 月 28 日 耐震工事完了・エアコン設置工事完了  
 平成 18 年 8 月 22 日 テニスコート改修工事完了  
 平成 20 年 12 月 25 日 校庭芝生化工事完了  
 平成 21 年 9 月 15 日 トイレ改修工事完了  
 平成 28 年 11 月 5 日 利島小 140 周年、利島中 70 周年記念式典開催  
 令和 6 年 4 月 1 日 義務教育学校に移行し、利島村立利島小中学校として開校予定

## （２）所在地

・利島村 8 7 番地

## （３）施設概要

- ・敷地面積（小中学校）：6, 2 0 0 . 3 9 m<sup>2</sup>
- ・敷地面積（体育館）：3, 6 8 0 . 8 9 m<sup>2</sup>
- ・延床面積（小中学校）：1, 1 4 7 . 1 4 m<sup>2</sup>
- ・延床面積（体育館）：8 5 1 . 5 1 m<sup>2</sup>
- ・構造：小中学校 鉄筋コンクリート造 2 階建ほか  
 体育館 鉄骨造（一部鉄筋コンクリート造）平屋・一部 2 階建

## （４）教育目標

人権尊重の精神を基盤とし、児童・生徒の自立を目指し、義務教育 9 年間の一貫した教育を通して、知・徳・体の調和のとれた人格の完成を目指して設定されている。

- 「自立」 ○よく考え 進んで学ぶ人  
 ○思いやりのある 心豊かな人  
 ○元気に たくましく生きる人

(5) 児童生徒数 (令和5年5月1日 現在)

・児童数 (小学校) : 19名、学級数 (小学校) : 6クラス

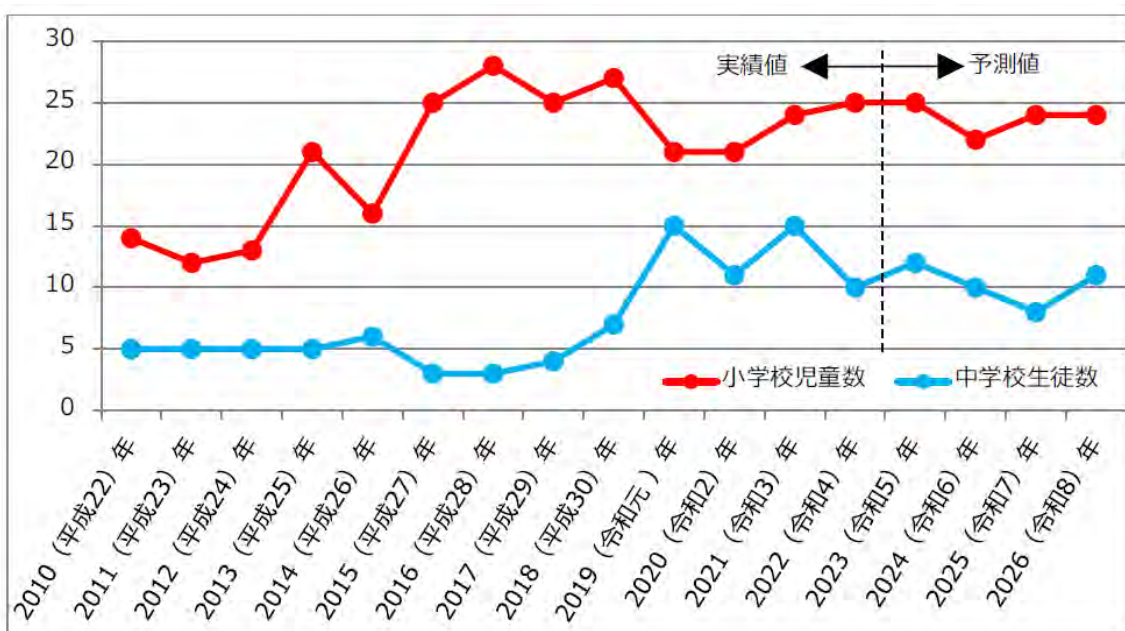
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男子	1	1	1	2	0	2	7
女子	1	3	4	2	2	0	12
計	2	4	5	4	2	2	19
学級数	1	1	1	1	1	1	6

・生徒数 (中学校) : 12名、学級数 (中学校) : 3クラス

	1年	2年	3年	計
男子	1	2	3	6
女子	1	3	2	6
計	2	5	5	12
学級数	1	1	1	3

表.児童生徒数推移

(出典：利島村学校施設長寿命化計画 令和4年3月)



**(6) 教職員数 (令和5年5月1日 現在)**

・25名 (常勤教職員数の小中合計)

校長1名、副校長2名、教諭17名、養護教諭1名、栄養士1名、事務職員2名、ALT1名

**(7) 教育活動の特色 \*令和5年度学校要覧引用**

**○小中連携による学習指導 (TT 授業、少人数授業)**

9年間を見通した小中一貫教育を推進するため、小学校と中学校の児童・生徒及び教職員が連携・協力して、全9学年の各教科を指導しています。

**○個別学習支援の取組**

児童・生徒一人一人の課題に応じて、きめ細やかな個別指導をしています。

**○各種検定の資格取得に向けた指導・支援の取組**

村教委と連携して漢字検定、算数・数学検定、英語検定の受検機会を確保しています。家庭での受検対策を提示し自主的に学習する習慣を身に付けさせます。

**○ふるさと体験学**

3年間を1サイクルとして利島の「むかし」「いま」「みらい」について学習します。(令和5年度は「みらい」)

**○充実した英語教育**

国際人に求められる資質や能力を育成するため、小学1年生から英語活動の導入、英語環境の整備、英語部 (放課後) 等、積極的に取り組んでいます。

**○児童・生徒による伝統ある奉仕活動 (道清掃)**

児童・生徒会活動の一環として、毎週土曜日、児童・生徒と教職員が、村内の寺・神社等をボランティア清掃しています。

**○全校一斉の歯磨き**

歯と口の健康づくりのために、毎給食後に全校一斉に歯磨きをしています。

**(8) 部活動 (令和5年4月1日 現在)**

・バドミントン部、スポーツ部、サッカー部、文化部 (美術・家庭科)、ピアノ部、合唱部、学習部、英語部

(9) 施設配置図

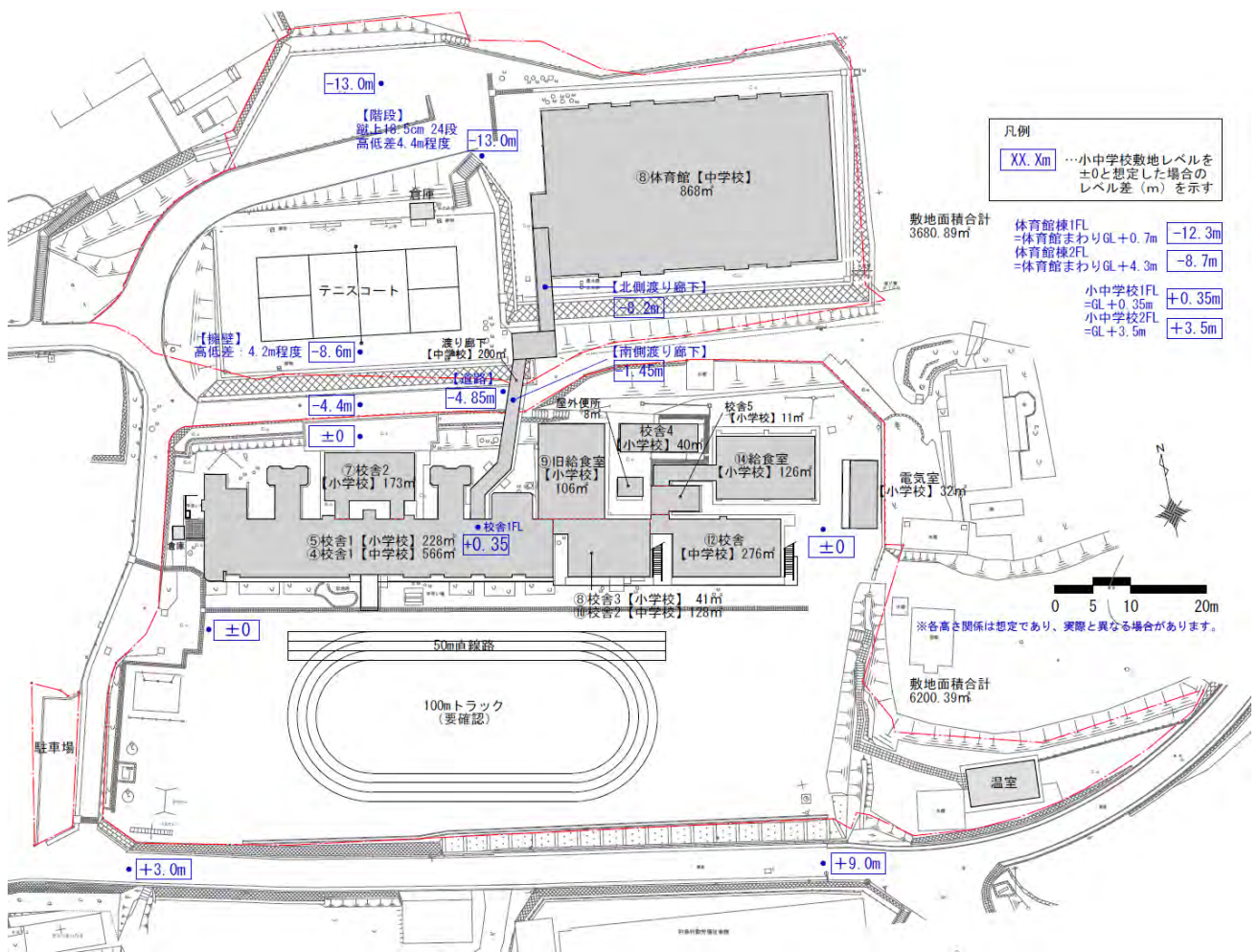


図.施設配置図

(10) 平面図

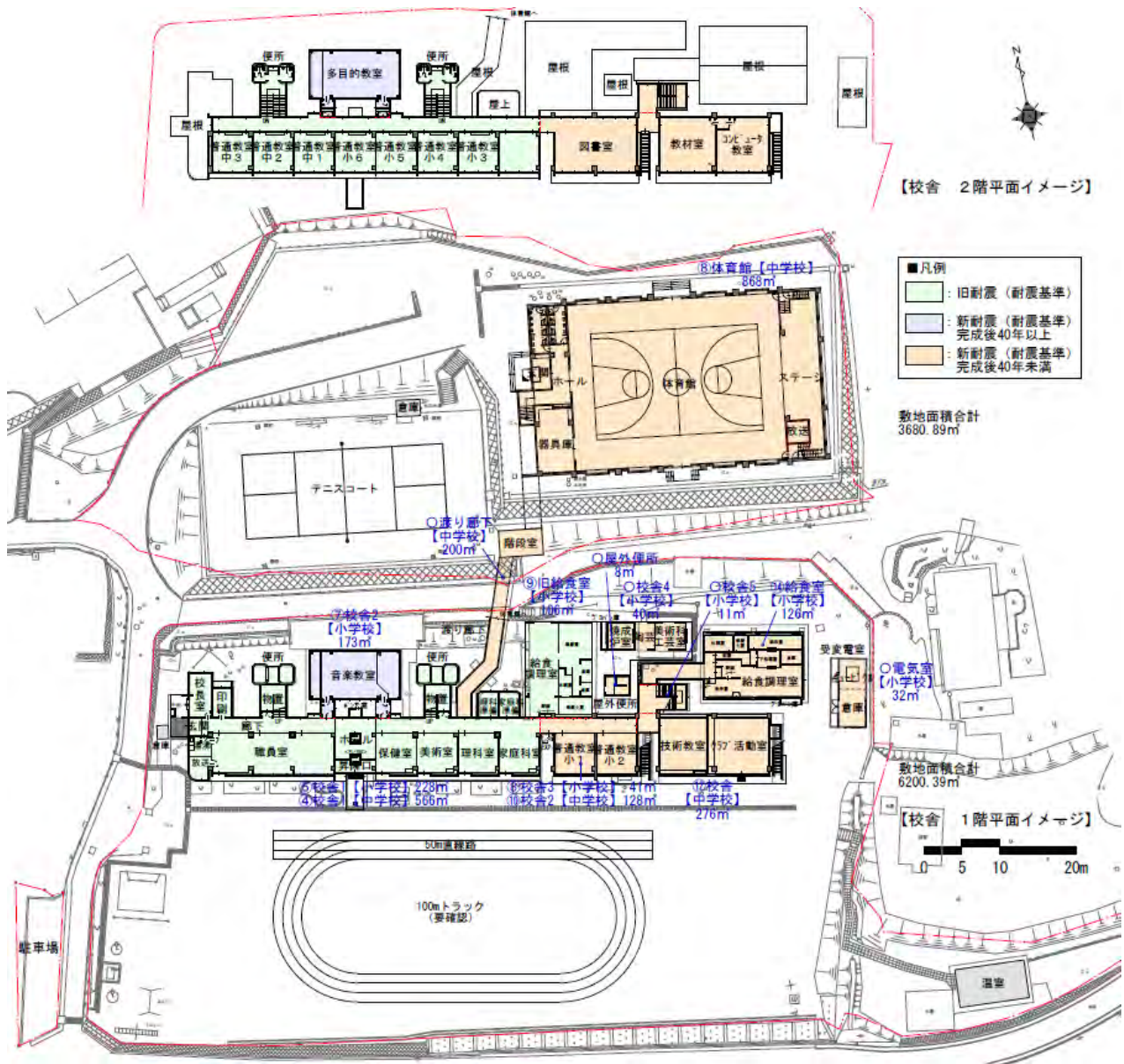


図.各階平面図

## (11) 校舎等の現況と課題

### ○校舎・校庭

- ・北下りの斜面に平場を設け、北側に校舎を配置している。
- ・校庭は校舎の南側に位置し、東側に高くなる擁壁が立つ。
- ・村の運動場を兼ねている校庭は芝生化されている。



校舎全景



東側の擁壁と校地の関係



西角にある遊具スペース



アプローチ方向



校舎の前にある池

## ○体育館

- ・体育館は校舎北側にあり、校舎敷地より低いレベルの土地にある。
- ・校舎から体育館への移動は階段のある渡り廊下で行き来する。おおよそ3階分程度の上下移動がある。
- ・体育館には独立して使える出入口があり、村民の体育館としても利用されている。
- ・西隣には町民テニスコートがある。体育館のレベルより4 mほど高い位置にあり、階段を上って利用する。



開放玄関側の体育館外観



体育館へ至る渡り廊下



校舎の宅盤レベルから見たテニスコート



テニスコートに上がる階段

## 内部の状況

### ○教室・廊下

- ・教室の広さや装備は1年生から9年生までほぼ変わらない。成長の実感が環境を通して得られにくい。
- ・教室には無線LANや大型提示装置等のネットワーク端末が装備されている。
- ・人数分の個人机と教師机がある。
- ・西側の校舎は庇が浅く、太陽光が室内に直接降り注ぐため、カーテンで調光している。
- ・教室前の廊下には多くの掲示が見られる。
- ・中学生の教室前には机が用意され、個別学習を行う場所となっている。



小学校教室



教室前の廊下



中学校教室



教室前の廊下

### ○トイレ

- ・校舎のトイレ・手洗いが階段の踊り場にある、すべて児童、教職員、村民兼用となっている。流し場も不足している。
- ・また校舎のトイレは全て踊り場にあるためバリアフリーに対応できない。



男子トイレ



廊下の流し場



### ○図書室

- ・小中兼用。村民にも開放されている。
- ・グループ机4台、イス6脚/台。
- ・6畳ほどの畳コーナーがある。
- ・夏場は湿気対策で常時空調を付けなければならない。



### ○コンピュータ室

- ・東端の校舎2階にある。現在はあまり利用されていない。



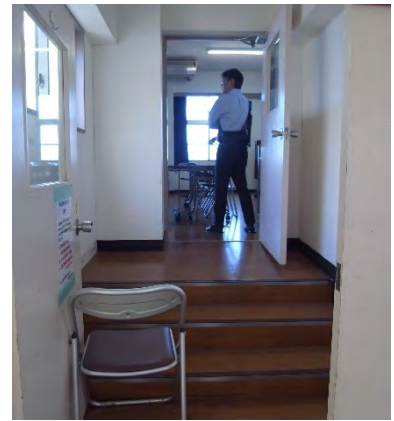
### ○音楽室

- ・1階にある。多目的室とともに西側の校舎棟の北側に増築する形で整備されている。
- ・ステージがあるが楽器置き場になっている。
- ・準備室はない。楽器置き場はカーテンで仕切るようになっている。未使用の楽器が室内にあふれ出している。



### ○多目的室

- ・音楽室の上にある。会議や中学校のランチルームとして使われている。
- ・北向きのため、窓から海が見渡せる。
- ・出入口に段差がある。



### ○昇降口ほか

- ・校舎の中央にある。小中兼用。
- ・水を再利用できる飲料水の浄化装置がおかれている。



### ○管理諸室

- ・小中兼用の職員室。中央に管理職と事務の机があり、その両側に小学校と中学校の教員机が並んでいる。
- ・来校者用の玄関が職員室から確認しにくく、インターフォンなどの設備もないため来客に対応しにくい。
- ・職員室が人数に対して手狭で、書類収納棚も少ない。
- ・教職員用更衣室や休憩室がない。
- ・2階の図書室の隣に教材室がある。



職員室



給湯室



教材室

### ○体育館・渡り廊下内部

- ・正規のバスケットボールコートが1面入る広さがある。
- ・村民に開放されており、地域の社会体育団体の練習場所となっている。
- ・体育用具がアリーナにあふれだしている。
- ・付帯施設の2階に剣道などの地域クラブの持ち物保管室がある。
- ・トイレはR5年の夏に改修工事を行い、バリアフリー対策も実施している。



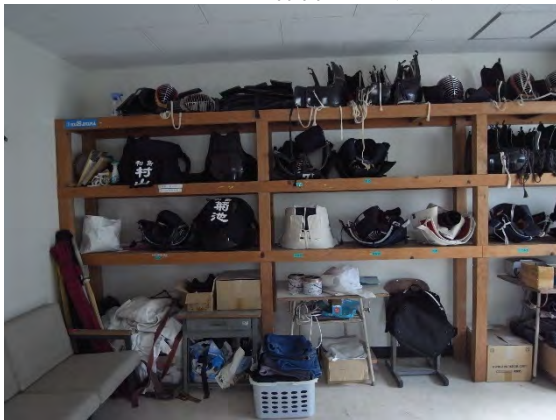
アリーナ



アリーナに保管された太鼓



校舎へ至る渡り廊下



地域クラブの倉庫



改修したトイレ

### ○学童クラブ（放課後児童クラブ）

- ・ 体育館の付帯施設の2階にある。
- ・ 30㎡ほどの広さの中に10人前後の学童が過ごしている。
- ・ 隣の更衣室を遊び場として児童に開放している。



### ○その他の課題

- ・校舎の北側に旧給食室などの未利用の施設が残っており、古い機材や備品等が手つかずの状況になっている。清掃もできず、衛生面でも校舎に悪影響を与えている。
- ・校舎に児童生徒の更衣スペースがない。
- ・校舎と体育館のレベル差が大きく、上下の移動負担が大きい。
- ・エレベーターやスロープがないため、2階へのアクセスは制約がある。
- ・給食室がアプローチの反対側の東端にあるため、食材等は校舎の廊下を端まで歩いて運ばなければならない。

## 2-2 利島村郷土資料館

### (1) 沿革・施設概要

村役場の隣にあり、平安時代末期から鎌倉・室町時代の円鏡、縄文・弥生時代の土器片や和鏡70面（うち28面は東京都有形文化財に指定）、利島最古の建物である阿豆佐和気命神社や大石山遺跡などからの出土品、民具、模型が分かりやすく展示されている。また、島の特産品である椿油を作る工程も学べる。利島小中学校の児童生徒が郷土教育の授業で訪れる施設にもなっている。

利島村教育委員会事務局が併設され、郷土資料館の窓口も兼ねている。

### (2) 所在地

- ・利島村248番地

### (3) 建物概要

- ・敷地面積： 608.05㎡
- ・延床面積： 351.62㎡
- ・構造：鉄筋コンクリート造 平屋

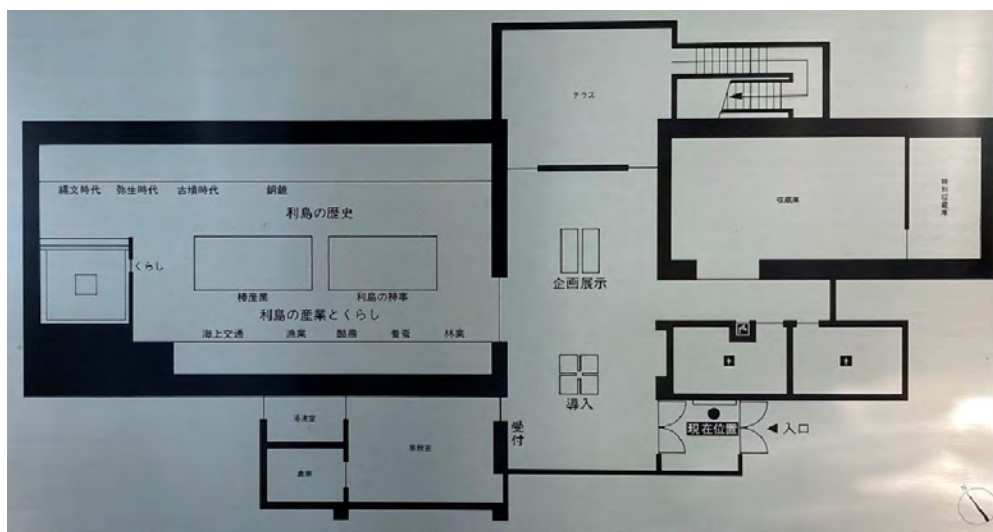


図.現況平面（サイン）

### (4) 休館日

- ・土・日曜、祝日（4月～10月は、10時～12時、13時～16時で開館）

### (5) 営業時間

- ・午前8時30分から午後5時まで

## (6) 施設の現況と課題

### ○施設周辺・外部環境

- ・敷地は南側道路より下がった位置にある。
- ・敷地の東側ですりついている。



### ○展示室

- ・利島村の歴史や文化、生活が良く分かる展示がされている。



### ○エントランスホール・企画展示スペース

- ・郷土資料のほか、観光情報や社会教育に関する情報も展示されている。
- ・エントランスホールは事務局の打合せスペースを兼ねる。



### ○教育委員会事務局

- ・事務局の執務スペース。個人机が4人分用意されている。
- ・会議スペースはなく、教育委員会の会議は隣接する村役場で行っている。





## 2-3 利島村勤労福祉会館

### (1) 施設概要

利島小中学校の南側に道路を隔てた場所にある。主として勤労者の文化・教養及び福祉の向上を図ることを目的として建設された。施設内には産業観光課が配置され、島を訪れた観光客を迎える役割を担っている。

世界最小といわれる2レーンのボウリング場や、談話室兼ホール、娯楽談話室(和室)、卓球室等が設けられ、村民及び観光客へ貸し出されている。村内に図書館が無いこともあり、図書や漫画などの貸し出しや、子どもを持つ親子のための子育て広場などの子育て支援活動もここで開催されており、島に住む人々の憩いの場としても位置付けられている。

### (2) 所在地

- ・利島村字東山19号1351番2

### (3) 建物概要

- ・敷地面積：1,496.61㎡
- ・延床面積：598.18㎡
- ・構造：鉄筋コンクリート造 2階建ほか

### (4) 開館時間等

- ・開館時間 午前9:00～午後6:00
- ・休館日 月曜日 ※月曜日が祝日または振替休日の場合は翌平日

### (5) 施設の現況と課題

#### ○アプローチ

- ・玄関に至るアプローチは急勾配であり、車椅子やベビーカーの利用者にとっては不便と考えられる。
- ・建物南側に駐車スペースがある。



### ○談話室兼ホール

- ・産業観光課の事務スペースが受付を兼ねている。
- ・産業観光課はボウリングや図書の貸し出し窓口ともなっている。
- ・ホールは来村者の休憩、船やへりの出発時間までの待合スペースとしても利用されている。



### ○ボウリング場

- ・2レーンある。
- ・村民の利用者は少なく、観光客が中心。



### ○娯楽談話室(和室)

・20畳ほどの広さがあり、ホールと一体的に利用できる。



### ○卓球室

・学校や地域のクラブ活動の場としても利用されている。



### ○図書スペース

・廊下に文学を中心とした図書や漫画本が保管されている。

